



市長と

車座トーク

第28回 東村学区（概要）



開催日時 2017年（平成29年）7月21日（金）

19:30～20:35

開催場所 東村公民館

参加者数 10人

次第 市長のあいさつ

意見交換

地域からまとめのあいさつ



<車座トークの主なご意見>

- ・消防団活動は本来の活動範囲を超え、地域のまちづくりや活性化に欠かせない役割や存在となっている。今後、消防団員の確保や若年層の集う場など、若い世代が参加しやすい環境について支援・助言をお願いしたい。
- ・東村町は住民の防犯意識が高く特殊詐欺被害も発生していない。安全マップづくりも広島県で最初に取り組んだのも東村小学校である。一方で、町内の市道の多くは、道幅が狭く歩道と車道の区別がない。その市道は通学路として指定されており、危険度が非常に高い。道路幅を広げ、歩道を設置し、安全な通学路にしていきたい。
- ・市道東村今津幹線の東大橋西詰め交差点は、スピードを出す車が多く、見通しが悪いため事故が多い。この道路は通勤、通学、緊急搬送など、東村にとっては重要な生活道路である。福山

西警察署と連携をとり、スピード制限等安全対策を考えていただきたい。

- ・町内には防犯カメラが2か所設置されており、犯罪抑止になっていると思われるので、あと2か所くらいあればいいなと思っている。
- ・通勤、通学、高齢者の通院、買物等の交通手段の確保は、安心安全な地域づくりに欠かせない対策である。バスルートや時刻の再考、及びバス以外の交通手段（例えば乗合タクシー等）の導入を検討していただきたい。
- ・これからは、民生委員児童委員を引き受ける人も年齢が高くなり、長期にわたって活動される人は減ってくる。他市では委員のなり手がなく、近くの地域を担当する委員に負担がかかっているところもあると聞いている。市でもその対策を考えて欲しい。
- ・東村学区では現在高齢者の居場所づくりとして、「ふれあいいいきサロン」を開催している。しかし、社会福祉協議会の補助金が減額され、現状からすると運営が厳しい状況である。他方、高齢者支援課の制度は、ハードルが高く申請ができない。居場所づくりはボランティアや担い手の確保、環境づくり等費用がかかるため、補助金制度の見直し等、地域の実情にそった策を講じていただきたい。
- ・東村町には管理ができなくなった耕作放棄地が点在しているが、今後、益々増加することが予想される。比較的元気な高齢者が、無理のない程度に、地域の人とかかわりを持ちながら、耕作放棄地を管理することを、行政として後押ししてもらえないか。今後、地域のコミュニティーやボランティアグループでの草刈りが必要になるとと思われる。そこで、草刈り等の費用の補助が制度化されればありがたい。
- ・現在、東村町は65歳以上の高齢者が40%を占めるまでになっており、このままの状態が進行すると、たとえば地域によっては、草刈り・河川清掃等、自治会の活動が困難になる。市の考えを聞きたい。
- ・乳幼児等医療費助成事業について、近隣の市と比べて、福山市だけ対象年齢の幅が狭い。市も対象年齢を拡大し、小児医療の充実を図っていただきたい。
- ・市はネウボラについてどのように市民に周知されようとしているか。ネウボラを一人でも多くの方に周知していただきたい。
- ・小学校再編問題において、子どもたちに意見を聞かないのか。再編すれば、子どもと地域住民との関りを今まで通り続けていくことができなくなると危惧される。今後も再編説明会では、心ある説明・納得できる説明を望む。
- ・開校準備委員会の設置は、今の状況で間に合うのか。設置後も東村住民の要望や意見を聞いていただけるのか。住民が同じ意識でないと同じ方向へ進んで行かない。説明を十分していただきたい。

<市長のまとめ>

- ・福山市の消防団は、全国的にも有名で、福山が誇る組織である。災害の時に、もっとも頼りになる地域のよりどころ。消防団の活動をみんなで理解し、支え、敬意を払っていかなければならない。今年から、大学生の消防団員が就職する時に有利になるよう、団員であることを認証

する制度を始めた。学生時代に消防団活動を行っている、社会人になっても継続して活動を行ってくれると思う。

- ・ 2年に1度、地域と行政と警察とが、現地を見ながら安全対策について議論する場がある。直近では2016年度に開かれたが、その際に必要とされた対策は、今年度中に対応が完了する。今後も、地域の皆さんでよく相談し、さらに安全性向上の為に対策をまとめていただければ、行政、警察は対応する。
- ・ 東大橋西詰め交差点の安全対策の件について、スピードを抑制する道路構造物の設置を検討している。色々な対策を講じながら、引き続き安全性向上の取組を行っていきたい。
- ・ 福山市は防犯カメラの数が多く、犯罪の抑止や解決に大きな効果があると警察署から言われている。優先順位を踏まえながら、引き続き整備を行っていく。
- ・ 市内全域のバス路線について、バス事業者に参加してもらい、今後どうすればいいのか、バス路線の維持ができないのであれば、それに代わる交通手段などの議論を行なった。地元説明会も実施しており、今後は地域で情報の共有化を図り、要望があればお聞きしたい。
- ・ 高齢者の外出、買い物をする際の助成制度として、『おでかけ支援事業』がある。また、『買い物支援事業』は、日用品、食料品の注文を受け付けて配達を支援する事業であり、ぜひこの2つの事業を利用してほしい。
- ・ 民生委員の高齢化が進み、なり手不足の現状において、再任の方には長い間ご負担、ご苦勞をおかけしている。民生委員は国の制度であり、こういった実態は県を通じて国に報告していく。
- ・ 元気な高齢者や独り暮らしでも生きがいのある高齢者の居場所づくりは、これからも大切になってくる。実態にあった助成制度を考えていき、できるだけ高齢者の居場所づくりの確保に努めていきたい。
- ・ 個人の土地は、個人で責任もって管理するのが原則であるが、高齢者が多い状況では、みんなで協力できるような新たな支援制度を考えなければいけない状況にある。新しい時代の新しい支援制度を考えてみたい。
- ・ 自治会が高齢化していることについて、今まで通りの支援制度や考え方で自治会を維持していかうとするとなかなか対応しきれない。市でも議論を始めていきたい。全国の過疎地や限界集落が、どうやって地域を維持しようと努力してきたのかなどの事例も含めて、地域のコミュニティーの在り方を先取りしながら、考える時期にきていると思う。
- ・ 大学生の地域に対する思いと地域の課題とをうまく地域の役員さん達が繋げて、新たな協力をつくりあげていたら良いと思う。
- ・ 乳幼児医療費助成の問題は、都市によってさまざまな取組がある。この問題だけを見れば福山市は決して他都市よりも手厚いとは言えないが、他の子育て制度を見た時には、決して他都市よりも劣っていると思っていない。広島県も少子化の時代に子育ては社会全体で目を向けるべき新しい課題であり、各自自治体のサービス合戦になってはいけないと言っている。福山市は広島県と一緒に、子どもの養育関係の調査をしている。その結果を踏まえて、子育て家庭にどういった助成が必要かを考えていきたい。
- ・ ネウボラは、6月14日に市内12箇所ですタートした。若い子育て家庭の皆さんに、大きな

期待を持って受け入れていただいていると思う。経験豊富な相談員が窓口で話し相手になってくれる。気軽に利用してほしい。あらゆる機会を通して周知していかなければいけない。

- ・地域の皆さんは、今まで学校があり、子どもがいて、地域の元気を維持できているが、学校再編によりその元気が無くなるのではないかという心配がある。そのことはよく理解できる。少人数の学校と、一定程度の人数の確保された学校のどちらが良いのか、という事については、客観的な結論があるわけではなく、色々な見方がある。
- ・すさまじい勢いで世の中は変わっている。これからは、我々が経験したことのない世の中で、どう地域社会を築いていくかという時代になっていく。世の中が全然違うのだから、これまでと同じことをやっていたのでは、活力を維持できないと思う。
- ・学校再編問題は、まず家庭で子どもの意見を保護者が聞いて、大人の議論の場で伝えてもらえる方が、整理された議論になるのではないかと思う。
- ・両学区の皆さんが説明会へ積極的に参加していただけるよう、教育委員会が順序を踏んで説明し、皆さん方の気持ちが前に向かうように努力を続けたい。

<地域からのあいさつ>

今日は市長にはご多忙の中、東村学区にお越しいただきありがとうございます。こうして、平素話し合えることができない市長と話し合いができ、みなさんも喜んでいただけたと思います。

「かかし祭り」は、町民が毎年一丸となって行っており、今年第72回を迎えます。平成25年には地域の活性化に取り組んだ功績により、広島県知事から「広島県いきいき地域づくり賞」を頂きました。

また、農業後継者の育成の一環及び地産地消の取組として、地元でとれた米や野菜など学校給食にも提供しています。消費が多くなれば生産にも力が入り、農家の活性化にもつながるものと思います。どうかご支援をお願いします。

これからも東村町の文化や歴史を継承しながら、子どもたちを大切に、お年寄りが安心して暮らせ、活力あるまちにしていきたいと思っております。今後ともよろしくご協力をお願いします。